

琉球交響楽団 第44回 定期演奏会

Ryukyu Symphony Orchestra The 44th and 45th Subscription Concert

指揮 大友 直人 (おおとも なおと)

桐朋学園大学を卒業。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘各氏に師事した。桐朋学園大学在学中からNHK交響楽団の指揮研究員となり、22歳で楽団推薦により同団を指揮してデビュー。現在、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督。また、2004年から8年間にわたり、東京文化会館の初代音楽監督を務めた。

在京オーケストラの定期演奏会にとどまらず、これまでにコロラド交響楽団、インディアナポリス交響楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団などに招かれ、2012年にはハワイ交響楽団のオープニングコンサートを指揮、以降定期的に客演しており、同年6月にはロレーヌ国立管弦楽団の定期公演に客演、絶賛された。2013年にはエネスク国際音楽祭に招かれ「弦楽八重奏曲 op.7」を演奏。“繰り返し演奏されているが、今回の演奏は最高の演奏”と評され、欧米での活躍にも大きな期待が寄せられている。

第8回渡邊暁雄音楽基金音楽賞(2000年)、第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞(2008年)を受賞。

ピアノ 清水 和音 (しみず かずね)

ジュネーブ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。1982年、デビュー・リサイタルを開き、高い評価を得た。1983年、第9回日本ショパン協会賞を受賞。同年「プラハの春音楽祭」にて、プラハ室内管と共演。この成功により1984年、ブラティスラヴァ音楽祭のオープニングでスロヴァキア・フィルのソリストとして招待された。また同年、ミュンヘンのヘラクレス・ザールでデビュー・リサイタルを行った。ロジェストヴェンスキー指揮ロンドン交響楽団、ジャンドレア・ノセダ指揮キーロフ歌劇場フィルハーモニー管弦楽団、ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団、アシュケナーズ指揮シドニー交響楽団などと共演を重ね、国内外で広く活躍。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。1995年秋から2年にわたって行われた、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲演奏会は、その完成度を新聞紙上で高く評価され、ライブ録音が発行されている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースしており、各誌で絶賛されている。2011年には、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番～第4番とパガニーニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。デビュー35周年を迎えた2016年5月には、バッチェスターの指揮で、ブラームスのピアノ協奏曲第1番及び第2番を熱演。同年4月からは、2ヶ月毎・年6回の室内楽シリーズ「芸術プランチ・コンサート」を開始するなど精力的な活動を続けている。2018年までの5年間・年2回のリサイタル・シリーズ「ピアノ主義」では幅広いレパートリーで聴衆を魅了している。

クラリネット 宇根 康一郎 (うね こういちろう)

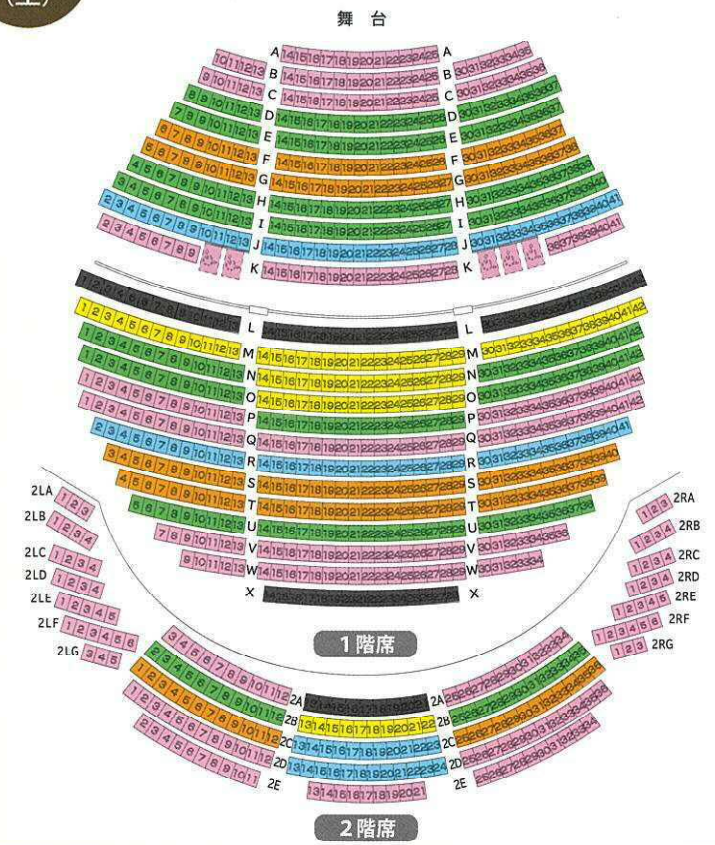
本部町出身。沖縄県立開邦高校芸術家音楽コースを経て沖縄県立芸術大学を卒業。2013年公益財団法人青山財団奨学生。大学卒業時に西銘賞を受賞。ドイツ・ヘッセン州立フランクフルト音楽・舞台芸術大学にて修士課程を修了。桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程を修了。

第19回おきでんシュガーホール新人演奏会オーディションにてグランプリを受賞。2017年、スペインのフォズにて開催されたバル・イ・ガイ音楽祭国際クラリネットコンクールにて第3位を受賞。第90回日本音楽コンクールクラリネット部門にて第2位を受賞。

これまでにクラリネットを渡久川千佳、横井操、村井祐児、松本健司、Helge Harding、Laura Ruiz Ferreres の各氏に師事。現在、九州交響楽団首席クラリネット奏者。

3/4
(土)

アイム・ユニバースてだこホール大ホール



3/5
(日)

名護市民会館 大ホール



各プレイガイド取扱座席

- 琉球交響楽団事務局
- デパートりうぼう
- コープあぶれ
- イープラス
- tiket
- 販売不可

※イープラスでのご購入は座席選択不可です。